

HiR ニュースレター 第3号

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

March, 2011

広島大学の学術研究成果を発信する「広島大学学術情報リポジトリ」と、オープンアクセスに関するニュースをお届けします。

第3号 コンテンツ

- シンポジウム「学術情報流通の危機を考える」開催
- Westlaw Japan から HiR へのリンク スタート!
- シリーズ・リポジトリFAQ 第2回 「雑誌論文の登録」 ■ お知らせ

■ シンポジウム「学術情報流通の危機を考える」開催



学術情報流通の危機を考える：電子ジャーナル・出版・機関リポジトリの現在と未来

電子ジャーナルの高騰により、研究成果の生産者である研究者がその読者になれないという異常な状況が世界中で拡大しています。本シンポジウムは、研究者・大学・出版等さまざまな側面から学術情報流通の現状と課題を共有し、学術研究を支える学術情報基盤の安定的な維持について議論する場として開催されました。

学内外から、教職員、学生、図書館員、出版関係の方々、総勢66人の参加をいただき、時間の許す限り質問や意見交換が活発になされました。資料は、<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/2010symp/2010symp.html> に掲載しています。

平成22年11月29日(月) 広島大学図書館ライブラリーホール
プログラム

- ・【開会挨拶】浅原利正(広島大学長)
- ・【講演】安達淳(国立情報学研究所学術基盤推進部長)
「電子ジャーナルがもたらす新たな問題：研究情報の共有と流通のこれからを考える」
- ・【講演】永井裕子(日本動物学会事務局長) 「学術情報世界の明日」
- ・【報告】石井道悦(広島大学副図書館長) 「電子ジャーナル・機関リポジトリ：広島大学の現況」
- ・【パネルディスカッション】司会：佐藤正樹(広島大学図書館長)
パネリスト：安達淳、永井裕子、戸田昭彦(広島大学総合科学研究科教授)、玉木徹(広島大学工学研究院准教授)



浅原学長



佐藤館長



安達氏

電子ジャーナルを整備できるか否かによって、大学間の情報格差が生じる懸念がある。国内大学間や国際連携、セーフティネットの整備、制度化が有効な解決策である。



永井氏

日本のジャーナル出版市場はXMLを作らず世界から取り残されている。オープンアクセスを考えた時、著者負担による出版も機関リポジトリも、研究者・学会の認識に大いに関わる。



戸田教授

大学教員は学術情報流通の消費者であり、生産者である。査読するにも引用論文を読むため電子ジャーナルが必要。利用者として情報をどれだけ簡単に入手できるかが重要。



石井副館長

運営費交付金の減額が続き、電子ジャーナルの価格上昇も止められない。経費の見直し、コンソーシアムをはじめとする連携、機関リポジトリ、大学出版会などの取り組みを紹介する。



玉木准教授

紙だけでは活用してもらえない。リポジトリは論文のURLが不変だから、自身のウェブサイト代わりに役立つ。が、研究分野の近い人にいかに関分の論文を見つけてもらうのが大事。

Westlaw Japan から HiRへのリンク スタート!



Westlaw Japan は、日本の法令・判例データベースです。学内限定でご利用できます。このたび、Westlaw Japan の判例の「評釈」論文名から、広島大学学術情報リポジトリで公開している論文に対して、リンクボタンからアクセス可能になりました。これにより、検索判例に関連する参考資料として、学術論文をその場で読むことができます。主なリンク先は、「広島法学」「広島法科大学院論集」「広島大学マネジメント研究」などに掲載された法学系論文です。同様に、他の機関リポジトリやCiNiiへのリンクもあります。

煙中久彌・福岡大学法学論叢 53巻4号463頁 CiNii

原田剛・法と政治(関西学院大学) 59巻3号1頁

荻野奈緒・同志社法学 60巻5号443頁 CiNii

大西邦弘・広島法学 32巻1号87頁 機関リポジトリ

HiRへ

本文へ

シリーズ・リポジトリFAQ 第2回 雑誌論文の登録



リポジトリでは、雑誌論文・学内紀要・報告書・学位論文など、多様な種類の学術成果を公開しています。図書館では、これらのコンテンツ数を拡充し、より多くの方に役立てていただくため、先生方に論文等のご提供をお願いしています。ここではリポジトリ業務について寄せられたご質問とその答えを掲載いたします。

Q: 図書館からこんなメールが届いたけど、どうすればいいの? どんなファイルを送ればいいの?



件名: 論文ファイルのリポジトリ登録について (依頼)

〇〇先生、いつもお世話になります。
... (中略) ...

下記の論文は、Wordなどで作成された著者の原稿ファイル(マニユスクリプト)と図表ファイルであれば、出版社がリポジトリへの登録を許可しています。(出版社がレイアウトした電子ジャーナルファイルは登録が認められていません)

そこで、もしお手元上記の原稿ファイルと図表ファイルが残っておりましたら、このアドレスにメールで送って頂けませんでしょうか?

1. 論文タイトル1
掲載雑誌名, 巻号, 発行年
2. 論文タイトル2
掲載雑誌名, 巻号, 発行年

A: 掲載雑誌の発行者(出版社や学会等)が、リポジトリでの著者原稿ファイルの公開を認めているものをピックアップし、著者の皆様に許諾のご依頼をしています。公開可能なものを選択の上、なるべく、論文がアクセプトされた時点の著者が作成した原稿ファイルで、出版社フォームやロゴがないものをご送付ください。TeX等で作成された場合は、本文と図表をまとめてPDF化したものをご送付いただければ幸いです。ご協力よろしくお願いいたします。

本学は、平成22年度における国立国会図書館での学位論文(博士)のデジタル化実施に当たり、学位論文のインターネット公開等に係る著作権処理を同館と協力して行うことといたしました。今回、平成3年度から平成12年度までに本学から同館に送付した学位論文*が対象となります。(*平成13年4月以降送付した学位論文のうち、平成13年3月31日以前に学位授与したのも一部含まれます。)

つきましては、本件の趣旨を御理解いただき、国立国会図書館長および本学学長の連名で学位論文の著者の方に許諾をお願いする文書が参りました際には、御配慮賜りますようお願い申し上げます。



HiRニュースレター 第3号 平成23年3月発行 広島大学図書館
学術情報リポジトリ担当: tosho-seibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp

※本誌は、http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/newsletter/ でご覧いただけます。